



## 障がい福祉について



中右 憲利 議員  
(令和新風加西)

**問** 親亡き後、障がいのある子供が不自由なく暮らせる支援について。

**答** 令和5年度には緊急時短期入所空床確保事業を実施しましたが、事前登録者は72名を超え、実際に4名が利用されました。また、市内に20部屋のグループホームが完成するとともに、親元を離れて宿泊体験ができる単独型短期入所施設の整備も進行中です。今後も障がい者、養護者の不安解消のための施策を推進していきます。

**問** 医療費助成は、精神障がい者が3級まで無料、一方身体障がい者は2級までとなっているがその差について。

**答** 現在の重度障害者等医療費助成制度は、精神障がいは県制度の1級に加え、2級、3級を市単独の助成対象としています。一方、身体障がいは県制度と同じ1級、2級までとなっています。今後は知的障がいも併せ、財政状況も勘案して制度拡充の方向性を検討したいと考えます。

**問** 障がい者の就労支援について。

**答** 就労支援連絡会において2か月に1度協議しています。令和5年度は農福連携について協議し、11月より市内の農業法人での受入れが整い、就労支援B型事業所が週2回施設外就労をして

います。今後も農業の労働者不足と福祉の就労先開拓のマッチングを進め、さらなる農福連携を推進していきます。

**問** 現在実施していない5歳児健診の今後の方針について。

**答** 現在の体制で不十分な点について医師会にも意見を仰いで検討を重ね、5歳児健診の実施についても検討し、就学までの切れ目ない支援体制を整えます。

**問** 福祉会館の児童療育室ひまわりルームの事業継承について。

**答** 事業委託していたNPO法人の解散方針により、市直営で療育事業を行う方向で進めています。北部キッズを福祉会館に移転し、名称をねひめキッズとして、従来の子育てひろば事業と療育事業を併せて実施する方針です。



## 市民の望む未来づくり



橋本 真由美 議員  
(清流会・かさい育む会)

### 庁舎附属棟建設に関して

**問** 市民に広く意見を聞く必要性は低いと言われたが、市民の声は聞かないのか。

**答** (副市長) 市役所組織の効率化や市民の利便性を考慮し、市役所業務を行う執務室の確保が庁舎増築の一番の目的と考えます。今後、実施設計を進める中で、市民の意見を聞く機会や説明する機会も設けたいと考えます。

**問** 12月議会で出された意見を踏まえ、建設場所の検討をされたのか。再度、同じ場所を選んだ理由は。

**答** 本庁舎と迅速かつ容易に連携を図ることができる場所であることが重要と考えます。行政サービスをワンストップで提供できることは職員の仕事のしやすさ、ひいては利用者の利便性の向上にもつながるため、本庁舎との併設が望ましいと考えています。

### 学校再編について

**問** 小規模校を望まれる方への対応は。

**答** 再編に当たっては少人数学級や少人数授業の工夫など、加西市独自の対応により可能な形で実現していきたいと考えます。

### 人口減少対策について

**問** 若者流出の原因を把握することが必要ではないか。

**答** 第6次加西市総合計画の策定に当たって実施した中高生アンケートでは、中学生345名、高校生256名から今後のまちづく

りに向けた意見などを聞いています。高校生では市外に転出したいと考える傾向が高い結果となりました。市が力を入れるべきこととして、店を増やしてにぎわいのあるまちにする、公共交通の充実、医療や福祉の充実、自然を守るといった意見が多くありました。

**問** どのような方法で市民の意見を聞いているのか。

**答** 市長への手紙やタウンミーティング、各種団体との意見交換等で意見を伺っています。

**問** タウンミーティングは多世代が集まっているとは言い難い。若者たちが意見を言える環境づくりについての考えは。

**答** 令和6年度は、第6次総合計画の後期計画策定に取りかかります。策定に当たり中高生の意見を聞き、計画にも反映したいと考えます。